凍りついた雷-Frozen thunder-

pyma

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
凍りついた雷－Ｆｒｏｚｅｎ　ｔｈｕｎｄｅｒ－

【Ｎコード】
Ｎ２５９０ＢＡ

【作者名】
ｐｙｍａ

【あらすじ】
何番煎じだかわからないほどやりつくされた異世界トリップものです。
基本的に話しは進みません。
（以前書いていた小説のアカウントをなくしてしまったので新アカウントで１話から書き直させてもらいます。）

お久しぶりです。（前書き）

P「本当にすいません。」

お久しぶりです。

以前書いていた同名の小説のほうのアカウントをなくしてしまったのでとりあえず心機一転して新アカウントからやり直します。
みてみんのアカウントもＩＮできなくな（パスワード忘れてしま）ったので同じように登録しなおそうと思っています。
これまでもこれからもよろしくお願いします。
・・・まぁ、以前の小説も人気とは言えない程度の物語でしたが・・・
・
最後に投降した話が投げやり過ぎたのと推敲しなおしたので末永く付き合ってください（笑）

キャラクター紹介（前書き）

とりあえずキャラクターを紹介する場所です。
一章進むたびに更新。

キャラクター紹介

旧凍雷ではカラーリングがヤンデレとの感想が来ていたり。
…ヤンデレではございません。
Ｆｒｏｚｅｎ　ｔｈｕｎｄｅｒは群像劇です。群像劇…ってほどでもないのだけれど。

藤原雷花（ふじわららいか）
旧凍雷で主人公。
Ｆｒｏｚｅｎ　ｔｈｕｎｄｅｒは群像劇なので主人公ではなくなったと思われる。
よく「魂の慟哭」などいうが無知蒙昧なので意味はあまりわかっていない。
とりあえず身体能力は高くない。
廃れた魔法の属性「雷」を扱える。
身体能力は高くない。（大事なことなので二回言いました。）

龍堂花梨（りんどうかりん）
＞ｉ３０４３７―３９０８＜
絵・青森の純子さん
旧凍雷では脇役。
出番一番多かった気がするけれど脇役。
身体能力は極めて高い。
普通に現存する属性「炎」を扱える。けど炎自体めったにお目にかかれない属性。
このカラーリングから見て分かるかもしれませんがこの小説の配色の元にもなっています。

氷雨花月（ひさめかげつ）

旧凍雷ヒロインだった人。
身体能力以前に魔法の属性が「氷」以外全く決まってなかった人。
魔力は少ない。
ただし旧では全キャラ通して最後に登場。
そして目立ったような活躍もなく連載打ち切り。
ある意味一番の被害者。

キャラクター紹介（後書き）

一応主要人物だけ報告。
恐らくこの3人でローテーションしていけるかな？
…行けるよな・・・
心配になってきました。

何気ない日常にさようなら（前書き）

うわお、予想外に進まない。
推敲なんて言ってましたが…
ただ旧作の誤字脱字を編集、改訂して移すだけなんですよね。
投稿ペースは考えよう、週一とかその位に・・・
いや、文字数が規定超えたら…？
不定期連載になるのか…ただでさえ読者がいないというのに
花梨が～ー省略ーこれを読んでくれる人が笑顔になってくれると作者は喜べる。

何気ない日常にさようなら

俺の名前は藤原雷花、よく女みたいって言われる。
悲しいかな見た目も割と女っぽい。
花「雷花は誰に向かって言ってんの？」
この女は龍堂花梨、右眼だけ紅色と云う中途半端なやつだと思う。
花「どうしたの？」
こいつはこう見えても異常である。
別に障害などではじゃなく身体能力が異常に高い。
こっちを不思議そうに見てくる顔は割と整っていると思う。
花「…いい加減答えようよ」
痺れを切らしたようだ。
花「別にそうじゃないよ？」
どうやら違うようだ、というか
雷「人の心を読むな」
なぜか人の心を読んできた。
雷「で、ここは俺の家なんだがなんで来ているんだ？」
ここは俺の家である。
花梨が俺の家にいることがおかしいのだ。
花「えっ…それは迎えでしょ。」
雷「俺の部屋にか？」
そう、ここは俺の部屋である。
花「で、学校遅刻しちゃうけどいいのかな？」
雷「いや、困るだろ普通。」
うん、何を言い出すんだこいつは。
花「え、雷花って普通だったけ？」
確かに同年代のほかの人よりは身体能力低いわけだが…
雷「…なぁ、」
花「ん？」

…こいつわかってんのか？
雷「何でずっとこの部屋いるんだ？着替えたいんだが…」
着替えたいのに花梨がずっとこっちを見ているのである。
こっちみんな
花「あっ、そういうことか、先に言ってくれないと困っちゃうよ？」
花梨は出て行ったな。
とりあえず着替える俺。
着替え終わったおれは階段を下りた。
なんとその先には！
花梨がうちの台所で何か食べてた。
雷「え？」
花「え？」
返された。
雷「いや、お前の食べてるものはいったい誰のものだ？」
花「ん？私のに決まってるでしょう？」
じゃあ俺の飯はあるんだな。
花「元雷花のご飯だけど。」
ないんだな、わかった。
雷「とりあえず返せ。」
花「残念！食べ終わりました！」
…こいつなんかやだ。
朝飯が食べられなかった俺はとりあえず食パンを食わえて登校。
結局花梨は俺を置いて出て行った。
あいつは結局俺の家で飯食べてっただけじゃねぇか…
花「残念！私がただ食べて行くだけだと思った！？」
曲がり角から出てきた。
今更だけどなんでこんなにテンション高いんだろう・・・
俺には理解できないし理解しようとも思わない
雷「じゃあ何しに来たんだよ」
花「迎えだって何度言わせるの？」

雷「じゃあ迎えってのは勝手に人の朝飯を食うか？」
花「あ、あのさ！そ、そうだよ！犬歯って触ると痛そうだよね！」
どういう話のそらし方だよ・・・
雷「で、何で人の朝飯食ったんだ？」
花「あ、くそ、逸らせなかった」
やっぱり逸らしたかったようだ。
花「ほら、急がないと学校に遅刻しちゃうよ？」
雷「なんで朝飯食ったんだ？なぁ？」
花「相変わらず雷花は無知蒙昧だね？」
雷「魂の慟哭！」
とりあえず何事もなく学校に俺たちは二人揃って廊下に立たされた。
花「雷花の心配してた程の事は起きなかったでしょ？」
俺としては廊下に立たされる時点で驚きなんだが…
花「あ、雷花、足元。」
雷「ん？」
俺の足元には穴があった、濡羽色っていうのか？
きれいな黒色だった、底が見えないくらいに…え？

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2590ba/

凍りついた雷-Frozen thunder-

2012年1月8日16時52分発行